

SANZUI vol.04\_2014 early summer

特集

変身



SANZUI vol.04\_2014 early summer

CONTENTS

「SANZUI」は、実演芸術のあらゆる魅力を伝えます。  
実演芸術に触れた感動が水の流れのように  
人々の身体の中に深く浸透し、潤し、育みますように。  
そんな思いを込めました。  
<http://www.epra.jp/sanzui/>  
(バックナンバーの閲覧・プレゼントの応募はこちらから)

02-11 特集 **変身**

**壮一帆**  
**要潤 / 大島輝久**  
**でんぱ組.inc**

12-13 街角変身図鑑

14-15 美匠熟考  
美空ひばり「みだれ髪」収録用マイク / 舞台下駄

16-17 カンゲキのススメ  
「ヒーローショー」

18-19 裏舞台という名の表舞台  
「寄席文字」橋 左近

20 若き実演家の未来 / 皆川まゆむ

21 SANZUI ぼっしょん  
沖縄県立南風原高等学校郷土芸能部

22 エッセイ  
**林望**

24-29 ロングインタビュー

**坂本龍一**

特集

**変身**



特集

# 変身

## 舞台の魔法

たとえば、男が女になる。たとえば、女が男になる。  
たとえば、若者が年寄りになる。たとえば、現代人が未来人になる。  
舞台の上で、ドラマの中で、さまざまな演者が、  
鮮やかな「変身という魔法」を見せてくれる。  
華やかな「変身という魔法」で魅せてくれる。  
しかし、それは、魔法などという簡単なものではなく、  
演者の一生における努力の結晶であり、  
変身しても変わることはない強い意志であることをあなたは知るだろう。



Photo / Ko Hosokawa

So Kazuho

# 壮一帆

宝塚歌劇団 雪組

## 役柄をどれだけ魅力的に演じられるか、 それをお客さんに楽しんでほしい

宝塚には「男役10年」という言葉があって、女性が演じる男役スタイルが完成するには10年ほどの時間がかかるといわれる。逆にいうとその期間を超えると、完璧な男役像への変身術を会得するので、素の女性である立ち居振舞いを置き忘れても気づかない現象がしばしば起こる。

雪組のトップスター、壮一帆さんは男役19年目。今年100周年を迎えている宝塚歌劇団の頂点に立つ一人として、女性であることの日常をほとんど忘れかけていると笑う。「私だけではなく、男役はみなそうだと思うのですが、10年以上やっていると、家にいる時でも無意識に足を開いて座っていたりします」

過去に芝居の中の役に没頭し過ぎてオンとオフを切り離せなくなり、私生活まで狂いそうになった経験を持つ壮一帆さんは、舞台上では徹底的に役に集中する代わり楽屋を出たら男役としての変身に戻ることにしている。が、その男役から素の女性への変身というか脱皮はなかなか難しいらしい。では、改めて日常の変身過程を復誦して貰うと——。「家を出た時点でスイッチが一つ入る。劇場前ではファンの方がたが待っていてくださりお手紙を頂きます。当然、男役・壮一帆として頂く訳です。それからウォーミングアップして楽屋でメイクを始め、髪型を作り、衣装を付けたら、そこで完璧にスイッチが入りますね。顔を作って、衣装を着れば変身完了です。全身を鏡に映して、「ああ、きょうも恰好いい！」と毎日、自己陶醉しているのです(笑)」

役については、資料を徹底的に調べ、演出家の意図を第一に演じるという壮一帆さん。色々な役を演じてきた中でも『ベルサイユのばら』には、6度登場した。「まず、原作を読む視点が変わります。アンドレやアランでは平民目線、フェルゼンだと貴族目線、そうすると作品の見え方が違ってきます。『ベルばら』は再演も多く、役のイメージが確立されています。奇をてらわず、原作に忠実に演じることで、その人物の魅力をお客さんが見出してもらえるといいと思っています」

さらにもう一つ、宝塚には特有の変身過程がある。男役の実験を積んできた役者が女役を演じること。『風と共に去りぬ』のスカレット・オハラなどキュートで強めの個性を持った女性は男役が務める。「踊りでも筋肉の付き方が違うし、上から目線というか娘役には出せない強さとか、男役がやるからこそ意味のある女の役がある」

「でもね、結論的にいえば、与えられた役柄をどれだけ魅力的に演じられるか、気持ちよく楽しめるかだと思います。それを観にいらした方が面白かった、来てよかったと口をついて出るのが最高の褒め言葉」。変身をする中でも自分を見失わない、壮一帆さんのリラックスした笑顔が光った。

PROFILE 中学から剣道部に所属し、高校の時に男役を目指して宝塚音楽学校を受験。一発合格。1996年に初舞台を踏み、花組に配属。2001年雪組、2006年花組へ組替えを経て、2012年雪組トップスターに就任。明朗な歌声と心を捉える幅広い演技力で、客席を魅了する。『一夢庵風流記 前田慶次 / My Dream TAKARAZUKA』の東京宝塚劇場公演(8/1~31)千秋楽をもって、宝塚歌劇団を退団予定。

14年目に辿り着いた「変身」のかたち  
自らを客観視することで見えてきた俳優としてのあり方



1981年香川県生まれ。2001年に『仮面ライダーアギト』の氷川誠／仮面ライダーG3役でデビュー後、『GOOD LUCK!!』『流星の絆』『龍馬伝』『早海さんと呼ばれる日』『東京トイボックス』など、多彩なテレビドラマ・映画で主演・客演を務める。4/5(土)より、NHK総合『タイムスクープハンター シーズン6』(全18話)が毎週土曜23:30から放送中。



Photo / Ko Hosokawa

「俳優」の特徴を表す形容は無数にある。他人になり代わり、異なる人生を表現することが俳優の職能とするなら、どんな現場でも技巧的な演技力を発揮する演技派俳優や、役柄に合わせて外見をも変えてしまうカメレオン俳優は、それぞれの役者が見出した変身のためのメソッドであると言えるだろう。では、彼の場合はどうか？

要潤さんは、2001年に『仮面ライダーアギト』でデビューして以来、いわゆる「イケメン俳優」の枠に収まらない独創的な役柄に臆することなく挑戦してきた。例えばギャグマンガ原作の映画『ビューと吹く！ ジャガー』では、縦笛を武器にするシュールな主役を演じた。出身地である香川県PRのために「うどん県副知事」に扮したことも記憶に新しい。じつに多彩な経歴を見返すと、自らの既存のイメージを覆すことを恐れないカメレオン俳優としての姿が浮かび上がる。だが要さんはこう言う。

「役者にはキャラクターを内面から作っていく『<sup>ひょうい</sup>憑依型』と、外側から作っていく『客観視型』の2パターンがあると思っていますが、僕は明らかに後者です。プロデューサーや監督が配役を決める時に意識しているのは、役者たちが生み出す演技のハーモニーですよね。だとすれば『要潤』らしい演技を期待されて僕は声をかけていただいている。ですから、一番気にかけるのは自分らしさと他の役者とのバランスなんです。現場の空気、役者同士の関係を注意深く観察しながら自分のポジションを発見していく。パズルのピースを見つけてはめていく感覚に近いです」

インタビューは、今年4月から新シリーズが放送開始した『タイムスクープハンター』の撮影現場で行われた。要さんは戦国時代や江戸時代を調査する未来人、時空ジャーナリストを演じる。未来からの歴史の改変を避けるため、常に傍観者であろうとする役柄は、自分を客観視型と分析

する要さんのハマリ役だ。

「歴史ドラマですから各時代の知識は勉強しますが、調べれば調べるほど深い演技ができるかという、それは別の話。現場に対して一定の距離を保ちつつ、いざカメラが回り始めたら瞬時に役を演じられることが、『タイムスクープハンター』で僕に求められている客観性だと思います。付け加えるなら、オンとオフの境界がないことがプロの俳優の条件だと僕は考えています。いつ『スタート!』と言われたとしても、瞬時に役を演じられなければダメ。今年で俳優生活14年目を迎えますが、仮面ライダーでデビューして以来、僕は『変身しっぱなし』なのかもしれません」

インタビュー中、冗談を差し挟みながらも真摯に俳優論を語る姿は、たしかにテレビや映画で見る「要潤」そのものだった。変身し続けながら、同時に自分を客観視すること。それが要さんが辿り着いた「変身」のかたちなのだ。

本番前の最後のひと時、シテと呼ばれる主役は、能舞台に隣接する「鏡の間」で大きな鏡の前に座り、精神を集中させる。空気も息をひそめるような時間。能面に一礼をし、顔にかける。再び集中の寸刻を過ごし、やがて幕の向こうの舞台へ静かに歩み出ていく――。

継承されている演劇として世界最古と言われる能は、一見、派手な演出も凝ったストーリーもなく、捉えどころのないイメージがあるかもしれない。しかし、実は演者の身体は秘めたエネルギーに満ち、能面は豊かな表情を見せる。深い感情に包まれる舞台は、現代でも観る人の心を驚かす。鏡の間の儀式性、能面の不思議、舞台の深遠。能の秘密に迫りたくて、大島輝久さんに話を伺った。浮かび上がってきたのは、650年続く芸能の底力だった。

“変身”の象徴にも見える能面をかける瞬間は、大島さんにとって、舞台に対する「覚悟を込める瞬間」だという。「能

面をかけると、視界が狭く、暗い。必然的に気持ちが内向し、自分自身と対峙するようになってきます。そうすると、自分だけが違う空間にいる気がしてきて、何か別の力に突き動かされる感覚があるんですよね。それを妙に冷静な自分が眺めていたり。能面には、人間の内部を変える力があるんだと思います」。スポーツの世界で言われるゾーンに近い状態になることもあるという。「能面がそれを起こりやすくさせていることは間違いないでしょうね」

いわゆる“役作り”について尋ねると、意外な答えが返ってきた。「現代演劇と異なり、能は様式が定まっています。どちらの足で出るか、止まるかも明確に決まっています。その決まり事を忠実に実行するのが最初の段階です」。泣く時の型、手の角度、声色を変えないというルールなど、様式の内容は様々だ。「稽古を重ね、様式の“技術”を突きつめていくなかに、自然と役柄が入っていく、という考え方で

す。それがいわば役作りでしょうか。能というのは、そこまで技術が体系づけられているんです。役柄への個人的な意識は、かえって能の作用を薄めるという。「われわれは芸術家というよりは特殊技能者ですかね」と大島さんは笑う。「質の高い稽古を繰り返すうちに、意味のない様式の中に意味が出てくる。役柄の心持ちがふわっと現れて、何とも言えない、いい雰囲気は舞台に広がる瞬間があります。理屈じゃない。だから、能面をかけ、覚悟を決めた瞬間に自我はどこかに捨ておいて、ただ一心にやる。能は自意識を超えたものを目指している演劇なんだと思います」

室町時代から受け継いできたのは、そんな“変身”の瞬間を追い求める姿勢かもしれない。「能はとんでもなく奥が深く、恐ろしい完成度を持っています。それを先人から与えられた。自分は通過点に過ぎないと思っています。いい舞台をすることで、次により良い形で繋ぎたい」



PROFILE 1976年広島県出身。100年の歴史を持つ能楽堂を受け継ぐ、能大島家5代目。3歳「狸々」で初舞台。27歳で高校卒業試験のような「狸々乱」を、34歳で独立前の大学卒業試験に例えられる「道成寺」を抜く(初演のこと)。「燦ノ会」共同主宰。「能は普通の人が定年となる60歳ぐらいからが本番。目の前の舞台に対し、一生かけて懸命でいられる。幸せだなあと感じます」

Photo / Ko Hosokawa

能面の魔力。様式の底力。

Oshima Teruhisa  
大島輝久

能楽師 シテ方喜多流



「秋葉原ディアステージ」からスタートし、多彩な活動を展開するアイドルグループ。東京コレクションや、ファッションデザイナーのミキオサカベら様々なクリエイターとのコラボレーションを活発に展開。国内のみならず海外からも注目を集める。最新シングル「サクラあっぱれーしょん」は、オリコンウィークリー3位を記録。5月には初の武道館ライブが決定している。(写真(下)左から順に 夢眠ねむ、相沢梨紗、古川未鈴、藤咲彩音、最上もが、成瀬瑛美)

## 秋葉原から世界へと羽ばたくでんぱ組.inc

### 6人を無敵のアイドルに変身させるライブの魔法とは？

秋葉原の一角にある「秋葉原ディアステージ」からスタートし、今年5月には武道館での単独ライブを行うアイドルグループ「でんぱ組.inc」は、メンバーの6人それぞれがアニメ、マンガ、ゲーム、コスプレなどのコアなオタク。アイドル活動とオタク趣味を前向きに両立させる姿勢が、秋葉原に集う同世代の若者たちの共感を集めている。

一般的にアイドルというと「私生活は秘密」というイメージがあるが、でんぱ組.incはオフの使い方もひと味違う。

瑛美「オフの時間は、オタク活動に使える貴重なチャンスなのでムダにしません。取材前に少し時間が空いたので、一人カラオケでアニソン歌ってきました！」

もが「オタク同士だから、プライベートの時間の大切さを理解し合っているんだよね。それぞれが好きなことをする」

未鈴「今日は、ゲームセンターに行って、渋谷でつけ麺を食べてから来ました(笑)」

遠い世界にいる、絶対に手の届かない存在。今までのアイドル像をひっくり返す自由さが彼女たちの魅力だ。だからと言って、彼女たちにアイドルとしての自覚が欠けているわけではない。でんぱ組.incの普段の活動が日常(オフ)と地続きだとすれば、大勢のファンを前に非日常の空間を作り出すライブは、特別な「オン」の時間だと全員が声をそろえる。

彩音「開演前に陣を組んで『よっしゃ行くぞー！』って拳を掲げるんです。その一瞬で世界が180°回転する気がします」

もが「本番には魔法がかかっている。リハーサルでは酸欠になっていたのに、ステージに上がると全然疲れない。無敵状態！」

瑛美「舞台衣装を着るのもテンションが上がるよね。普通の女の子が変身して世界を救うっていうアニメを子ども

の頃に見ていたけど、主人公の気持ちが分かる」

ねむ「ライブって温泉みたい(笑)。自分の中に溜まっていたものが外にデトックスされて、ファンのみんなが放出するパワーをもらって元気になります」

梨紗「信頼できるメンバーがいて、ファンの人たちが『楽しもう』という気持ちを持って来てくれることで、ライブは特別な空間に変わります。私たちも変身してるけど、ファンのみんなも普段とは違う自分に変身していると思います」

テンションを高める衣装やメイク。メンバーへの信頼。ファンとの絆。キラキラと輝くものや人の力を借りて、6人はアイドルに変身する。そして、そんな自分自身に、彼女たちは大きな自信を持っている。

未鈴「6人がそろえば、お客さんを絶対に楽しませる自信があります。一人では不安になることもあるけれど、ステージにみんながいる瞬間は無敵のアイドルなんです！」

# 街角 変身 図鑑

家庭と職場、アフターファイブ、誰でも時と場所によって振る舞いや役割は変わるものです。なかでも、ダンス・音楽・お芝居などのパフォーマンスをするときは、普段の自分とは別の人格が現れることも…!

「変身」のポイントに迫りました!

- ①はじめたきっかけ
- ②続けている魅力
- ③スイッチの瞬間
- ④普段とパフォーマンス時の違い

※所属は2014年3月のもの

太古の世界に通じる雅楽  
会社員(大阪府)  
住吉治美さん



①つけっぱなしになっていたテレビから聞こえてきた音色に惹かれて。こんな音を出してみたいと思いました ②一人・単一ではなく、複数の人で、複数の楽器の呼吸と音色が合わさって、時には舞人も加わって、一つの世界を作り上げていくところ ③できるだけ開始時間より早く着いて、空白の時間をつくる。装束を着けると気持ちがあがります ④演奏も舞も、とにかく集中。終わった時の解放感と寂しさ、充実感、日常生活ではなかなか味わえません。

遭遇! 変わったお芝居  
総務部長(東京都)  
坂口真紀さん



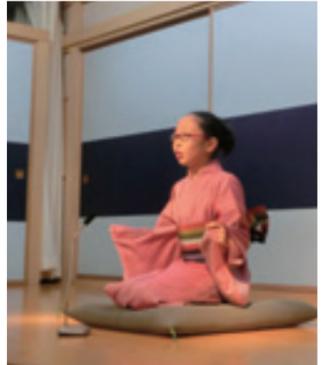
①学校にきた劇団の旅公演を観てやってみたくと思った ②一度やってみると刺激的すぎて普通の日常に戻れない…。パフォーマーであることで仕事も頑張ろうと思う ③メイクしてからはぱっと意識が変わります…笑 ④仕事は自分の意志と関係なくこなす事が多いけど、パフォーマンスは自分の表現が主体なのが面白い。反応がダイレクトに伝わってくる。人が自分を観て楽しいと思ってくれたり非日常を感じてくれるのはやりがいがある。

強く、激しい鹿子躍  
一関市役所職員(岩手県)  
立石宏介さん



①学生時代に一関を訪れた時、駅前で公演を見て知った。埼玉出身だが、一関の人と食に魅力を感じ市役所に就職。稽古を見学して、「かっこいい!」と一目惚れし、即、行山流舞川鹿子躍保存会に入会した ②激しく躍り、太鼓を叩き、大きな声で唄うことで、どんどん前向きに、強気になれること ③カシラの幕を顔の前に垂らした後、膝を曲げて腰を落とし、バチを構えた瞬間、鹿子になりきります ④普段以上に、大きく堂々と自分をみせたいと思っています。

落語でタイムスリップ  
小学生(埼玉県)  
紅葉亭真直さん(高座名)



①2年生の時学校で初めて落語を聞き、とても面白くて本を読み始めました。自分でもやってみたくなり「転失気」を覚えて披露したところ、みんながとても喜んでくれて、本格的に習い始めました ②まず、演っている自分が面白いこと。笑っていただいた時の幸福感。そして江戸時代から続く奥深さ ③座布団に正座し、演る癖を頭の中で整理するとスイッチが入ります ④落語はいろいろな役になれ、この時代に一瞬で江戸時代の長屋の住民になれるのが面白いです。

バンドでつながる  
専門学校講師(神奈川県)  
大木 斉さん(風鈴歌&S.O.N)



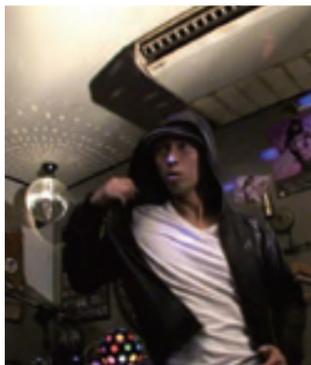
①高校の学園祭で初めてのライブがうけて、やみつきに。大学の頃はプロを夢見た。料理の道を選んだが、5年前、当時のメンバーと再結成 ②オーディエンスと自分たちのバンドが一体化した時の快感 ③幕が開く直前、バンドメンバー全員と目が合い、「さあ楽しもう」と声をかけ合った時 ④初めは意外と冷静に曲の構成やきめを確認しながらオーディエンスの顔を見ているが、スイッチが入ると無の世界。自分の能力以上のパフォーマンスになる。

ダンスは言葉の壁を越える  
Peach 客室乗務員(大阪府)  
藤原美恵さん



①幼少期から気づいたら踊っていた。いつでも踊れる場所や音楽が身近にあった ②ダンスは世界共通。みんな笑顔になります!音楽を聴きながら踊ること、正しい姿勢や表現力を身につけることで自然と笑顔になり、自分の元気の源です ③ストレッチをして気持ちを切り替える!音楽を聴いてテンションを上げる ④毎日緊張してフライトをしているので、いつも何かを考えながら仕事をしています。ダンスは自由に自分を動かし、表現することができます。

ストリートダンスで笑顔に  
農業(神奈川県)  
金沢伸行さん



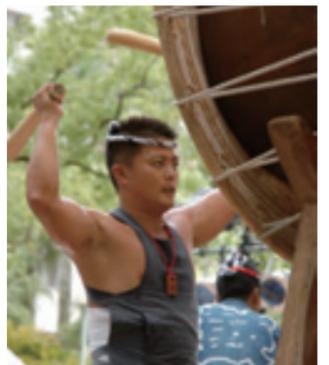
①サッカーのプロ選手を断念して、自分を表現する手段として妹にダンスをやってみたらと言われて、はまった!大学時代に世代間交流の団体を立ち上げ、ダンスを教えはじめた ②自由に表現して、自分のダンスを認めてもらうことで自信が付き、笑顔になる子どもたち、そして保護者の笑顔がとっても魅力的 ③どちらも地域活性化の切り口でスタート。切り替えは特になし ④野菜を作り届けたときの笑顔、ダンスでの子どもたちの笑顔、どちらも素敵なものです!

チェコの音楽で心もおどる  
青少年教育施設勤務(富山県)  
中條義彦さん



①チェコの民族舞踊との出会いは、チェコのフェスティバルで日本民謡を踊った際「このチャンスに」と受けた地元舞踊団のレッスン。叙情的な歌と音楽に魅了されました ②音楽と自由を愛するチェコの国民性が好き。訪れた町の人々との交流が蘇り、その町で踊っているような幸せを感じる ③ステージに出て客席を見た瞬間背筋が伸びて、身体にスイッチが入る ④元々結婚式など楽しむ機会に歌われ、踊られているものなので、自ら楽しんで踊ります。

和太鼓の躍動、感動!  
スパークジャパン社長(IT関連)(宮崎県)  
岡田憲明さん



①小学生の時に祭りで見た、宮崎で有名なJC太鼓のステージのカッコ良さに感動して、いつか入りたかった ②観客の皆さんからの声援。体力の限界まで振り絞って演奏した後の爽快感 ③さらしを巻き、衣装を着ると、スイッチが入る ④仕事の時は様々な視点で目配りしているが、太鼓の時は、目の前の太鼓に一点集中して全身のエネルギーを注ぎ込んでいる。演奏中は、その姿、その音、その躍動感で、一人でも多くの人の心を動かしたいと思っています!

反畑誠一 (音楽評論家)  
Tanbata Seiichi

## 美空ひばり「みだれ髪」 収録用マイク

昭和62年5月29日美空ひばりは50歳の誕生日を病床で迎えた。彼女はその5か月後、復活のレコーディングに臨んだ。作品は星野哲郎作詞、船村徹作曲「みだれ髪」。収録は東京赤坂の日本コロムビア本社3階スタジオ(昭和48年創設)で行われた。クラシックなどが一同に収録できる機能が整っており、数々の名曲がここから生まれた。美空ひばりの復帰記者会見は10月9日、鏡開き後「みだれ髪」も披露された。スタジオ入りに際しては、本社玄関から赤絨毯が敷かれていた。船村さんは「40年も歌い続けた喉も身体の休養とともに声の質を若返らせたようだ。もともと医学分野でも研究対象となるぐらい強靱だった」と著書にある。「『みだれ髪』は作詞者星野哲郎さんにとっても渾身の作品であった」とも。収録はオーケストラの伴奏で同時録音。それも2回だけ。この緊張感と人間ドラマをマイクロフォンは忠実に「伝説」にした。



協力:株式会社ひばりプロダクション

Number:007

Recording Microphone

吉田和生 (文楽人形遣い)  
Yoshida Kazuo

## 舞台下駄

舞台下駄は文楽の人形遣いが人形を高く差上げるために履く特殊な下駄です。お客さまには見えないものですが、人形を遣う上でとても大切なものです。15cm前後から40cmくらいまであり、人形遣いの身長や人形の大きさで高さが決まります。私の初めての下駄はお囃子の方が作ってくれました。器用な方で、私に役がついた時に「和生さんも、ひとつ作ったるわ」と。もう40年ほど使っていて、その方が亡くなられた今では形見みたいなものです。

鼻緒は自作です。自分の足に合ったものができますし、選ぶ布に持ち主の個性が出ますね。底のわらじは足音を消してすべりを良くするためのもので、人形遣いの若い者がつけます。下駄だけでなく人形の胴も、自分で使うものは自分で作ります。工夫して自分に都合よく作る道具は、苦勞せずに楽に使えますね。 (聞き手・文 浅野未華)



協力:一般社団法人 人形浄瑠璃文楽座むつみ会

Number:008

Butai Geta



やあ！僕は地球の平和を守るヒーローさ。今日は僕の仲間のヒーロー達の活躍を間近で観られるヒーローショーの楽しさを伝えるため、SANZUIにやってきたんだ。仮面ライダーやスーパー戦隊、ウルトラマン…。長い間続いてきたテレビでおなじみのヒーローは、ライブで見るともっとかっこいいし、魅力的。子どもも大人も会場で僕たちと握手だ！

## 求めがあれば、どこへでも

ショーといえば、劇場や遊園地と思われがちだけど地域のイベントやショッピングセンターのちょっとしたスペースは勿論、列車や船、海岸など様々な場所でショーをしているよ。最近では国内だけではなく、タイ、中国、インドネシア、マレーシア、韓国、ハワイなど海外でも公演しているんだ。現地語を話したり、最後に合掌をするなど、いつもとひと味違うヒーロー達に出会えるよ。僕らヒーローは、みんなに最高のショーを観て欲しいといつも思っているんだ。台風が上陸したとき、たった2組のお客さんを前に公演したヒーローもいるんだよ。

## 「一緒に」「かっこよく」がキーワード

応援してくれるみんなと同じ時間を共有できるのがヒーローショーの良さ。だから、みんなには積極的に参加してほしい。子どもたちは変身の仕方や武器の使い方まで覚えるくらい僕たちのことを熱心に見てくれている。だから、こっちだっていつも真剣勝負。みんなの応援の声を受けて、最後まで全力で

戦っているんだよ。仮面ライダーやスーパー戦隊のショーはスタントを駆使したアクションを展開！「シアターGロッソ」や、「ウルトラマンフェスティバル」など大きな会場では照明やレーザー、映像も使用した迫力のステージに、大人も興奮する人が多い。ぜひ子どもの時のワクワクした気持ちをもう一度味わってほしい。最近では若い女性のファンも増えているんだ。



## サービスも超人並み

僕らヒーローが、いつも応援してくれるみんなと触れあうことができる特別な機会がヒーローショー。観に来てくれたみんなには、絶対楽しんで欲しい。テレビよりもずっと長いアクションを見てもらえる

のもいいところ。新旧ヒーローがタッグを組むなど、テレビでは見られない組み合わせも楽しめるんだ。

「お正月だよ！ウルトラマン全員集合!!」では、ウルトラマンナイスとウルトラマンゼアスが漫才をしたり、ウルトラヒーローと一緒に神輿を担いだり、ショーや握手はもちろん、いろんな形でみんなと楽しい時間を過ごせるようにしているんだ。



## ご当地ヒーローならぬご当地怪獣!?

僕らヒーローの中でも、敵怪獣の人気の高いことが特徴のウルトラマン。神戸だったらポートタワーを倒したキングジョー、大阪だったら大阪城で暴れたゴモラだったり、その土地土地で人気の怪獣がいる。ヒーローショーの前には、どの怪獣が出るのか、という問合せが一番多いんだって。それ以外のヒーローも、地元の伝説と絡めたり、それぞれのストーリーや動きに地方色がでるよう工夫しているんだ。一緒に戦おうとしてくれたり、大きな声で応援してくれたり、ヒーローから見ると、地方によって観に来る子どもたちの雰囲気が違うのも楽しいんだって。

### ヒーローショーが楽しめる主なイベント一覧

映画村スペシャルショー『仮面ライダー鎧武』	東映太秦映画村(京都)	3/15~6/22の土・日・祝
ウルトラパワーステージ「拓かれる道」	手取フィッシュランド・ウルトラマンスタジアム(石川)	3/21~5/25の土・日・祝
獣電戦隊キョウリュウジャー×烈車戦隊トッキュウジャーバトルステージ	ポルトヨーロッパ・ABCアドベンチャーホール(和歌山)	3/21~6/29の日・祝
仮面ライダー鎧武超決戦バトルステージ	グリーンランド・グリーンスタジアム(熊本)	4/26~6/1及び6月土・日
ハビネスチャージプリキュア!ショー	グリーンランド・グリーンスタジアム(熊本)	5/3~5/6
ヒーローライブスペシャル2014 (スーパーヒーローショー/プリキュアオールスターズがやってくる!)	グランドプリンスホテル新高輪(東京)	5/3~5/5
仮面ライダー鎧武スペシャルショー	日本モンキーパーク(愛知)	5/18、5/25、6/8、6/22
3大特撮ヒーローフェスティバル ウルトラマン×仮面ライダー×スーパー戦隊	大阪南港ATCホール(大阪)	8/1~8/31

### その他例年開催イベント

「お正月だよ!ウルトラマン全員集合!!」	東京ドームシティ・プリズムホール	年末年始
スーパー戦隊シリーズ ファイナルライブ	全国各地	3~4月
「ウルトラファミリー大集合 IN すかがわ」	須賀川市文化センター	4月
「ウルトラマンフェスティバル」	サンシャインシティ	夏休み期間
プリキュアシリーズミュージカルショー	全国各地	7月~4月
仮面ライダーシリーズファイナルライブ	東京・大阪	9月~10月

株式会社円谷プロダクション公式Webサイト/イベントページ(<http://m-78.jp/event/>)

東映株式会社公式Webサイト/イベントページ(<http://www.toei.co.jp/event/index.html>)

※その他、各地で随時開催。各社ホームページ他、キャラクターショーファンサイト(<http://charactershow.jp/>)などでチェック!

## 寄席文字

Yosemoji

橋 左近

Tachibana Sakon

裏舞台  
という名の  
表舞台

多くの人たちによってつくられる舞台。  
主役のまわりに視線を転じてみると、  
至る所にプロの技が輝いている。  
舞台を支える人に光を当てる。



Photo / Anna Hosokawa Text / Kiyoshi Yamagata

東京・新宿三丁目の一角に新宿 末廣亭という寄席がある。周囲のビルとは対照的に昭和の風情を色濃く残す木造建て。入り口にはのぼりがはためき、出演者の名前が墨文字で書かれた板がびっしりと並ぶ。落語好きにはたまらない趣だ。この末廣亭の寄席文字を専属で36年間書き続けているのが、寄席文字書家の第一人者である橋左近さん。落語好きが高じてこの世界に入り、寄席を文字で盛り上げている。左近さんの仕事場は末廣亭の楽屋の真上。今日も落語を聴きながら筆を運ぶ。

「寄席には1か月を三つに分けて、上席、中席、下席と10日間ずつ出演者が入れ替わり興行します。ですからその度に入り口

に大・小4種類ほどの看板など出演者を寄席文字で書いています。右肩上がりで、尻上がり、そして寄席にお客さんが入るように、空席がないように、中へ中へと書くのが特徴です。私の生まれは1月2日。おふくろに『書き初めの日に生まれたから、字に縁があるんだよ』なんて言われたけど、どうだかわかりませんね。小学校の時に兄弟全員、書道教室に通われましたが、その当時は嫌で嫌で仕方がなかったんです」

左近さんは城下町である長野県飯田市の生まれ。老舗の呉服屋の大番頭で趣味人だった父の影響を強く受けて育った。

「親父は東京に仕入れに行くたびに寄席で落語を聴き、芸事も大好きでした。住まい

も色町のだ真ん中でしたから、非常に柔らかい環境で育った(笑)。親父からもらった小学校の入学祝いがなんと落語全集。多分自分が欲しかったんでしょう。漢字にはふりがなが振ってあり、全部読めた。これが面白くて面白くて、学校から帰ると読みふけり、ラジオの落語放送を聴き込み、完全に落語少年になりました。小・中学校の時はみんなの前で一席やりましたから、私は人気者。途中大火にあい上伊那に転校しましたが」

高校に入るとそれだけでは飽き足らなくなり、土曜日に学校が終わると、中央線の夜行列車に乗り、片道8時間半もかけて新宿に向かった。

「伊那から、ここ新宿の末廣亭に落語を聴きに came ました。当時はまだ蒸気機関車。新宿に朝の4時半に着いて、末廣亭で昼席と夜席までずっと聴いて、寄席がはねると夜行列車に飛び乗って伊那に帰る。月曜日の高校の授業の眠かったこと(笑)。生で聴いた志ん生、文楽、円生らの名人の語り口は素晴らしかったですね。もうすっかり魅了されました。落語を聴きたいがために大学に入った。志ん生の追っかけをやったり、大病をして、信州に帰っていたこともありますが、元気になると東京に舞い戻り、また寄席通い。通い続けて行くうちに『噺もいいけど、この字もいいなあ』と招き板に書かれた寄席文字が気になるようになっ

てきたんです」

寄席に置いてあるパンフレットはすべて集め、書かれている寄席文字を真似ているうちに次第にその独特の書体の魅力にはまってしまう。

「調べると橋右近という人が書いている。寄席の資料の収集家としても有名だとわかった。私も大学時代から噺家の系図を調べていたので、親近感もあり、昭和36年に意を決して師匠の家を訪ねました。それから仕事場に入り出すようになり、3年してやっと正式に弟子として認められました。人情味の厚い師匠でしたが、寄席のしきたり、礼儀作法、芸人とのつきあい方には厳しかった。よく『おまえ、了見がよくないよ』と叱られました。『了見は文字に出る。天狗になる時は天狗のような字、元気がない時は元気がない字だ』とね。落語と寄席文字は夫婦のような間柄。私にとっては生活の糧であり、生きる目的でもあります。寄席文字を書く時は、最後の止めを刺すまでは息を抜かず一気に書きます。私も小学校の頃から落語ひと筋。入門以来今年で50年。息を抜かずに寄席文字と噺家の系図をさらに突き詰めたいですね」

PROFILE 昭和9年長野県飯田市生まれ。幼少の頃より落語に魅せられ、寄席に通いつめる。橋流寄席文字に興味を抱き、橋右近師の門を叩き、一番弟子として修業を積む。落語史家・落語系図考証家でもあり、長年の調査研究の末、『東都噺家系図』(筑摩書房)を上梓する。





Photo / Kota Sugawara

## 世界と向き合う ダンサー

**皆川まゆむ**  
Minakawa Mayumu

PROFILE 埼玉県出身。日本国内を拠点に数々の国内外の振付家作品で主役や主要ダンサーを務め活躍、近年では自身での振付活動も意欲的に行う。昨秋よりインバル・ピント & アヴシャロム・ボラック ダンス・カンパニー所属。最近の主な出演作品として、「ピーターパン」(タイガー・リリー役)、「100万回生きたねこ」、「マシュー・ボーン『ドリアン・グレイ』(レディH役)など。

小学生の時ミュージカルに触れてから、夢はずっとダンサーになること。様々なジャンルのダンスを習ったが、自由なところに惹かれコンテンポラリー・ダンスの世界へ。「全く自分にはないものに触れることで表現の幅が広がる」と、舞台に留まらず、他ジャンル公演や、美術館・寺社等でのパフォーマンスなど、表現の場は多彩だ。シルク・ドゥ・ソレイユ登録アーティストでもある。国際的な評価

を持つイスラエルのダンスカンパニーに招聘され、昨秋より腰を据えて世界と向き合っている。「昔はステージに上がると観客席が暗くブラックホールのように怖かった。でも今は、お客様の空気や高揚感を感じながら、自分の心を開いて踊るのが楽しい。せっかく観に来て下さっているのだから、お客様が異空間にトリップできるようなダンスを踊ってきたい」

最近色々な公演のフライヤーが面白くなって来ている。ここでは5月から8月上演される、劇団・ダンス・演奏会などのフライヤーの中から、ちょっと気になるものを、本誌アートディレクターが選んでみた。



ナイロン100°C『パン屋文六の思案』  
～続・岸田國士一幕劇コレクション～

2014年4月10日(木)～5月3日(土・祝) / 青山円形劇場  
作:岸田國士 / 潤色・構成・演出:ケラリーノ・サンドロヴィッチ  
デザイン:坂村健次 / イラスト:あずみ虫

イラストがチャームで、すぐ手に取ってしまったフライヤー。タイトルも同じように切り文字を使い、ワクワク感倍増。中面(見せれなくてすみません)は出演者の美しい写真なのだが、イラストとの対比が面白い。観客にニオイカードを配ったり、衣装やダンスにも凝っているみたいで、ぜひ観てみたい。

新村則人=アートディレクター。1960年生まれ。主な仕事に資生堂、無印良品、エスエス製菓、東京オリンピック招致など。JAGDA・東京ADC会員。



パルコ・プロデュース ねずみの三銃士『万獣こわい』  
2014年3月15日(土)～6月1日(日)  
パルコ劇場(東京)ほか、大阪・札幌・仙台・福岡・那覇など9会場  
作:宮藤官九郎 / 演出:河原雅彦  
デザイン:河野真一

このフライヤーはA3サイズで、半分に折られていたのだが、まず「万獣こわい」のロゴが目に入ってきた。ロゴのクオリティの高さに感動しながら広げると、Xのマスクを付けた出演者の写真が、恐怖と謎を更に伝えていて、ゾクゾクする。日本全国の人に観て欲しい。http://www.parco-play.com/



2013.12.28「第1回夢ステージ子達の輝き」 於:国立劇場おきなわ小劇場(主催:宮古文化芸術社)



沖縄県南風原高等学校には、県内でも珍しい郷土文化コースがある。沖縄では、三線や踊りは身近なイメージだが、コースに所属する約30名の生徒の3分の2は実は初心者。授業では地唄、踊り、エイサー、獅子舞などの芸能の背景や基礎的な所作を学び、学校行事や地域の敬老会などでも披露している。郷土芸能部は、このコースの生徒を中心とする45名で、毎日放課後にさらに稽古に励んでいる。コースの20周年を記念した「在校生・卒業生有志合同公演」に向けた練習では、南風原町に伝わる琉球舞踊の糸染め、かせかけ、機織りの様子や、かぼちゃ、うーじ(さとうきび)、綱曳きなどを舞踊で表現する。勢理客美有さんは、中学生

のときにこの公演に触発され、「私も郷土芸能をやりたい!」と入学を決意。ゼロからのスタートだったが、「好きだから楽しい!もっと上手になりたい」と目を輝かせる。部長の宮崎花澄さんは、小さいときから琉球舞踊や三線を習ってきた。部活では、流派にとらわれずみんなと郷土芸能に取り組む楽しさを感じている。入学当初は、慣れない団体での演技、全国大会を目指す熱心な先輩たちに圧倒されることもあったが、今は明るくて積極的な部員に助けられているとか。12月には宮古島の小中高生とお互いの芸能を学び合い、舞台をつくる機会があった。「宮古の子どもたちが本島の歌を楽しそうに謡っていて、嬉しかった!」。同じ沖縄でも異なる文化があることを肌で感じ、年少の子どもたちが堂々と独唱する姿にも刺激を受けた。また一つ、成長のきっかけをつかんだようだ。南風原高校の卒業生でもある大城貴幸先生は、「芸能の基礎的なものを学ぶことで、文化の良さや歴史を知ってほしい」と温かく見守っている。なかには沖縄県立芸大や国立劇場おきなわの研修生に志願し、プロの実演家を目指す生徒もいるが、多くの生徒は保育士や介護士、バスガイドや観光産業などに目を向けているとか。仲間と日が暮れるまで部活に励んで、学内外での発表や大会への挑戦、それは生徒たちの将来にとって大きな糧になるだろう。



エッセイ

## 林 望「舞台で歌うということ」

Illustration / Asuka Kitahara

生来の恥ずかしがりで、少年時代から私は人前で歌を歌ったりすることを大の苦手としていた。

それが、大学時代に能を学び初め、謡や小鼓、仕舞などを学んで、やがて地謡方として舞台を勤めるようになると、さあ、人前で謡うということが俄然面白くもなり、また恥ずかしくもなくなった。きちんと師匠について基礎から稽古を積んで舞台にあがれば、人前で謡うことは決して恥ずかしくないということを知ったのだ。

しかし、昔から純粋に聴いて愉しんできたのは西洋音楽で、機会あらば是非師匠について学んでみたいと思っていた。そこへ東京芸大音楽学部教官にならないか、という話が降って湧いたのは、なんという天の恵みであったろう。さっそく音楽の基礎から習い初めて、コンコーネ、イタリア古典歌曲、それからソルフェージュ、楽典等々プロに師事して勉強し、数年後には、芸大や国立音大出の音楽家たちと重唱団を結成して、各地で舞台を勤めるようになった。The Golden Slumbersという日本歌曲や英国歌曲を歌う混声重

唱団、さらには英語重唱曲に特化した重唱林組という混声四重唱団、この二つのグループを主宰しつつ、プロの音楽家たちと一緒に多くの舞台を勤めたことは、どれほど勉強になったか分からない。百回の稽古より一回の本番と言う通りだ。

今は、バリトン独唱でも折々舞台に立つが、その快愉はなにものにも代え難い。

書齋に籠城して著作に励む日常のなかで、暇さえあれば歌の練習に励み、時に舞台に出て真剣勝負で歌う。私はプロではないけれど、お客さまに聞いて頂く以上、演奏は一定のレベルに達していなくては話になるまい。入場料を頂いて舞台で歌うということは、すなわち「仕事」なのであって、いい加減な演奏は決して許されない。そうして、全力で本番を終えたあとの爽快な達成感、これこそは実演芸能の醍醐味なのだと、つくづく痛感する毎日である。

作家・国文学者。慶應義塾大学大学院修了。元東京藝術大学助教授。『イギリスはおいしい』で日本エッセイストクラブ賞、『ケンブリッジ大学所蔵和漢古書総合目録』で国際交流奨励賞等受賞。古典論、エッセイ、小説、詩、音楽、料理等著書多数。『謹訳源氏物語』(全十巻)で毎日出版文化賞特別賞受賞。

## NEWS

### 歴史的音源のデジタルアーカイブが視聴できます

1900年代の初めに使われていたSP盤のレコード、このデジタルアーカイブ化が進められ、2013年までに48,700点が国立国会図書館に納品されました。現在、インターネットサイト「歴史的音源(れきおん)」(<http://rekion.dl.ndl.go.jp/>)では1,090点が視聴でき、国会図書館や全国で配信提供に参加している公立図書館でも47,642点が視聴できます。貴重な戦時録音資料や明治期に流行した小唄や端唄など、当時の様子が味わえます。(この事業は、NHK、JASRAC、芸団協、日本伝統文化振興財団、映像産業振興機構、日本レコード協会によって実施されました。)

### 第3号読者プレゼント 日本舞踊協会公演が開催されました

2月14日～16日の3日間、日本舞踊協会公演が国立劇場にて開催されました。記録的な大雪が降った日、初めて日本舞踊を観たという読者の方の感想をご紹介します。「まず、国立劇場の外の回廊を歩いたとき、雪景色と提灯の明かりでここが東京なのかかわからない感動を感じました。そして、劇場の照明や落ち着いた雰囲気、いらしてのお客様の独特な様子など、普段大学生をしてる身にすごく新鮮な体験でした。そして、公演。正直全くの初心者なのでわからない部分が多かったのですが、舞台上で現在進行形で踊っている方や歌っている方がいて、それを観ることで共有することに強い感動を抱きました。また、オレンジと水色の照明がとても綺麗な色の組み合わせでした。舞台を観に行くという行為は、その公演だけでなく会場へ行く道程や天候、自分の感情の起伏全てを総括した体験なのだと感じ、そうした機会を与えてくださったSANZUI様に感動致しました」(20代・学生)

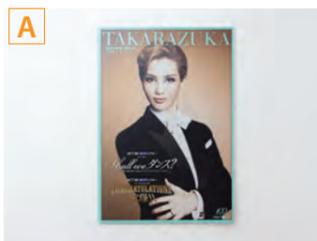
## PICK UP

### 「思い立ったらすぐ観たい!」あなたに ～宝塚の当日券購入ガイド～

今回特集のトップを飾った宝塚。興味は沸いたけど、チケットを取るとなると面倒くさそう……という方も多いのでは? 宝塚のチケットを取る方法には、宝塚歌劇オンラインチケット、各種プレイガイド、劇場窓口の前売のほか、当日券もあります。宝塚歌劇のホームページ(トップページ)→観てみたい演目の「公演詳細」ページ→左上のメニューの「当日券情報」で、席種別の当日券の有無、販売開始時刻が確認できます。宝塚大劇場と東京宝塚劇場では、前売が完売している場合、2階席の一番後ろの「当日B席」、座席券の完売後には、立見券が発売されます。詳しくは各劇場までお問い合わせください(宝塚大劇場:0570-00-5100、東京宝塚劇場:03-5251-2001)。

屋外で長時間並ぶこともあるので、暑さ、寒さの対策は万全に! 公演によっては高倍率になることもあります。何気ない思いつきが、一生の出会いになるかもしれません。

## PRESENT



### 壮一帆さんサイン入り 宝塚歌劇 雪組公演『Shall we ダンス? / CONGRATULATIONS 宝塚!!』プログラム 3名様

2014/1/2～2/9に東京宝塚劇場で行われた公演のプログラム。オールカラーで写真も満載です。ごく普通のサラリーマンを演じた壮一帆を、本誌の特集トップを飾ったフェルゼンと見比べてみては?



### 要潤さんサイン入り DVD「タイムスクープハンターシーズン5 全4枚セット」3名様

昨年春～夏に放送されたドラマを全14回収録したDVD。未公開映像などの特典もたっぷり入っています。放送中のシーズン6とあわせてお楽しみください!

【プレゼント応募方法】SANZUIウェブサイト(<http://www.cpra.jp/sanzui>)からご応募いただくか、はがきに①ご希望のプレゼント②氏名③年齢④性別⑤住所⑥電話番号またはメールアドレス⑦SANZUI入手場所⑧誌面の感想を書いて「〒163-1466 新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー11階 芸団協広報課」までお送りください。【締切】7/31(木)

\*当選の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。



## 編集後記

最近、鏡を見なくなりました。子どもの頃には、忍者の真似事が日々の勤めで、小学校6年位までチャンバラをやっていた。風呂敷で顔を覆い、ビールや空き缶のふたで手裏剣を作り、小屋の板戸に投げては嬉しがっていた。長押しに足を掛け、息をひそめ壁にへばりついては、忍者に成り切ったつもりだった。背中には刀のつもり竹の物指し。昔、見終っても立てない程に体がふるえ、涙がとまらない、魂がゆさぶられ浄化されたような舞台に出会ったことがある。そんな舞台を演じる人たちが、がいる社会、に生きる自分。鏡に写る自分を見つめ、己れへ、そろそろ変身してみるか、と問うてみよう。(後)

【お詫びと訂正】前号「SANZUI vol.03\_2014 winter」でご紹介した公演名に誤りがありました。正しくは以下の通りです。21ページ「アートディレクターの眼」(誤)劇団山の手事情報『ドン・ジュアン』(正)劇団山の手事情報『ドン・ジュアン』読者および関係者のみなさまにご迷惑をお掛けしましたこととお詫びするとともに、ここに訂正いたします。※ウェブサイトには修正版を掲載しております。

発行:公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会  
実演家著作権センター(芸団協CPRA)  
発行日:2014年5月1日  
発行人:浅原恒男(芸団協常務理事 広報担当)  
編集人:松武秀樹(芸団協CPRA法制広報委員会副委員長)  
編集顧問:大笹吉雄(演劇評論家)  
編集:芸団協CPRA法制広報委員会SANZUI編集プロジェクトチーム  
鈴木明文(音事協)、上野博(音制連)、古尾谷香代子(PRE)  
井上滋、小林俊範、榎野睦子、大井優子、小泉美樹、川崎佑(芸団協CPRA)  
アートディレクター:新村則人  
デザイナー:庭野広祐(新村デザイン事務所)  
コピーライター:二藤正和  
協力:東京宝塚劇場、ワーブステーション江戸、株式会社ピクス、国立能楽堂、新宿末廣亭、東京オペラシティ、グランドハイアット東京

芸団協・実演家著作権センター(CPRA)とは  
CPRAは実演家の権利処理業務を適正に行うための専門機関として、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会(芸団協)と関係団体の協力により1993年に発足しました。レコードやCDを放送で使ったり、レンタルしたり、テレビ番組をDVD化するなどの権利処理と使用料等の徴収を行い、委任権利者に分配しています。それに留まらず、広く実演芸術の円滑な流通と権利の擁護を目的として幅広い活動を展開しています。詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.cpra.jp>

# 坂本龍一

Sakamoto Ryuichi

Text / Eichi Yoshimura Photo / Ko Hosokawa

ぼくたちは、音楽家にとって  
困難な時代を  
生きているのかもしれない。

メディア・アートの  
時代に生きている

坂本龍一、62歳のこの音楽家は70年代に東京芸術大学でコンピュータを利用した作曲方法を研究し、やがてソロとして、あるいはYMOの一員として、つねにテクノロジーと格闘、あるいは寄り添ってきた。

プロの音楽家になってもテクノロジーから受ける刺激がつねにモチベーションになってきたという坂本龍一が、いま見つけるテクノロジーと音楽の関係。そして音楽を超えてアートとテクノロジーの融合をも見据えた現在の心境と活動について訊いた。

——最近音楽に加えて、アート関連の活動も多いですね。

もともとはドイツ人アーティストのカールステン・ニコライと知りあったのが大きなきっかけかな。10年ぐらいい前に彼と音楽のコラボレーションをやることになった。彼は一方では美術作家でもあるので、YCAM（山口情報芸術センター）で作品の展示をしたんです。それを観にほくもYCAMを訪れるようになった。それから縁ができて、2012年にYCAM10周年記念として1年間にわたる音楽とアートというテーマでのキュレーションをやった、今年は札幌国際芸術祭。たしかにアートの仕事が続いています。10代のときから現代美術はとも好きでしたが、その道を目指したわけではないのに、ここに来てアート関係の仕事が頼まれることが多くなってきました。

——自伝では、芸大では音楽学部だったのにもかかわらず、美術学部に入り浸っていたとあります。

芸大に限らず、美術学部のほうがおもしろい人間がいるんですよ。あの頃はアートという概念もどんだん広がって、当時はポップ・アートとかコンセプチュアル・アートといって、必ずしも絵がうまいことがいいアートの

繋がるわけではないという時代に突入してしまいました。いまも続いているその流れの中で、現代美術をやっている人がとくに絵がうまいわけではないし、逆に市井にいる絵のうまい人が必ずしも現代美術で素晴らしい作品を作れるわけでもない。そこがおもしろい。

——坂本さん自身もメディア・アートのいくつかの作品を発表しています。

真鍋大度さんともそうだと思うんですけど、いまはアートとテクノロジーと音楽を組み合わせたメディア・アートの時代だと思います。ぼくももともとコンピュータを使って音楽を作るということをYMOの頃からやってきたわけだし、テクノロジーやアートとは馴染みが深く、相性はいいんです。絵がうまいわけでも美術の才能があるわけでもないんですが…。

## 21世紀のテクノロジーと音楽家の悩ましい関係

——テクノロジーとヴィジュアルと音楽を結びつけたインスタレーションを作っている一方で、坂本さんの音楽はどんだんコンピュータを排除した演奏や即興に比率が選んでいるように見えます。

そうですね。いまでも音楽を制作するときには日常的にコンピュータを使っていてのだけど、ライブで演奏するときには使わなくなっている。なんでだろう？ みんながステージでコンピュータを使うようになったからかな。Macを使って最新のプラグインを使っておもしろい音を出す若い人はいっぱいいるから、その真似はしたくない。せっかくピアノが弾けるんだから何百年も使われてきたピアノという楽器で、「こんなに新しい音が出せるんだ！」という発見をするほうが自分としてはおもしろいんです。

——オーケストラやピアノ・トリオでの活動も増えてますよね。

オーケストラとの共演も、古い楽器

古い楽器、編成の中からもまだまだ新しい音が出てくる。

であるピアノでいろんな音を出していることとちょっと似てるんです。まだまだ自分がいいと思う音色がオーケストラという編成の中から出てくるんじゃないかなあと思ってる。ピアノ、チェロ、ヴァイオリンのトリオでの演奏もずっとやってきていますけど、そこでもやはりトリオという編成で、自分の従来の曲がまた新しい姿に生まれ変わらなかなあと思ってる。

——オーケストラやピアノ・トリオのためにこれまでの曲をアレンジし直してみ、あらためて自作について気づかれたことありますか？

たとえばかつてテクノポップとして書いた曲であっても、オーケストラに編曲しやすい曲もたくさんあって、そうか、この曲はそうしやすいんだなという発見をすることがあります。たとえば「ハッピー・エンド」という曲などがそう。だいたい、イエロー・マジック・オーケストラなんていうバンドのために書いた曲だったんだから、そういうオーケストラ的要素がもともとあったんですね(笑)。もともとがシンフォニックなサウンドだった。

### テクノロジーが変える現代の実演家の姿

——そしていま、坂本さんはひさしぶりのソロ・アルバムに取り組んでいるんですね。

来年には出る予定。だけど、今年も6分の1以上が終わってしまったのに、まだ一音も書いてないです(笑)。来年の春に出したとしても6年ぶりのリリースになってしまう。インターバルがどんどん拡がっていて、死ぬまでにあと何枚出せるかっていう。2枚ぐらいいしか出せないんじゃないかって話で

すよ、もう(笑)。パソコンとDTM

の登場以前は、レコーディングするにしても他のミュージシャンと一緒に練習して、1時間なり1日なりをかけていいテイクが録れたら、それがゴールじゃないですか。個人でコンピューターでやりだすと、ここがゴールという地点がない。リミットレスなのでいくらでもやっていられる。むかし、まだアナログの時代に『音楽図鑑』(84)

というアルバムを作って、そのときもリミットレスで、本当は制作費という意味でのリミットはあったはずなんですけど(笑)、それをぼく本人は知らずに1年10か月もスタジオを借りてレコーディングし続けた。同じ曲をほんのちよつと変えるだけで録音し直し。いまはそういう変更も、コンピューター上で数字をいじるだけで簡単に変わるから、自宅でいくらでも『音楽図鑑』的な状況が続けられる。どこかでやめるっていう決意がいまは大事なんです。

——コンピューターは人間の時間を奪いますよね。

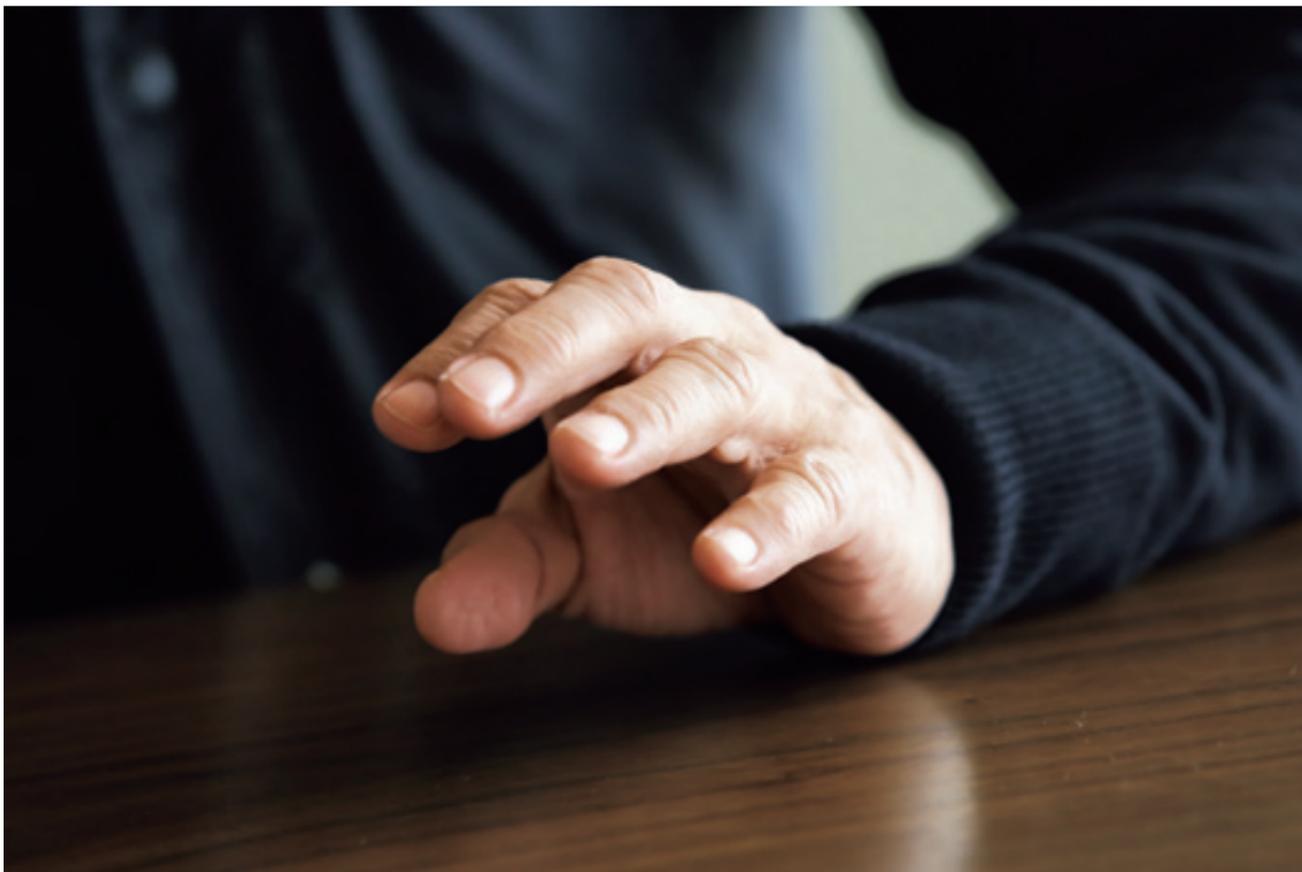
とくにSNS。あのおかげで読書量もものすごく減っちゃやし、困ったもんです。たとえば本だったらどんなに分厚い本でも必ず最後がある。ツイッターにせよフェイスブックにせよ、終わりがありませんか。リミットがないので、知識や情報をいつまでも探し続けちゃう。自分でリミットを設けないと、まったく際限がなくなる。

——テクノロジーの利点でもあり欠点でもありますね。

そういえば、最近、他人と一緒に演奏したことがないミュージシャンが意外と増えてるみたいなんですよ。

——え！

コンピューターを使えば全部一人でできちゃう時代でしょ。去年、ぼくが





## たくさんの“気”に負けないように 変身するための儀式

とても才能を買っている若いミュージシャンとセッションしてみただけど、なんだかうまくいかない。あれ、おかしいなあと思ったら、実は人と一緒に演奏するの初めてなんですって。えっ！っってもうびっくりしちゃって。いま世界中でCDが売れなくなってきて、音楽配信もそれをカヴァーできていない。それでみんなライブを増やしますよね。でも、ライブができないアーティストだって最近が多い。難しい時代になってきました。

——坂本さん自身も近年はライブをする回数が増えていますよね。ああいう大観衆の視線を浴びるステージに登る前、いわば私人から公人に変身するための儀式のようなものはありますか？

香りかな。一時期は香りに凝っていて、最近もかつてほどじゃないけど、ステージに好きなお香を焚いておき、同じ香りの粉を自分にも振りかけてステージに向かいます。その匂いを嗅いで、気を落ち着けるんです。粉というのはお坊さんが法要とかに行つた帰りに邪気を払うために振りかける粉。空港とかで説明に困るんですが(笑)。

——(笑)香りで変身するんですね。

やはり大勢の人の目にさらされるステージでは“気”をたくさん受けて、こちらもアドレナリンがものすごくたくさん出て、とてもハイになりますね。変身しないと受け止めきれない。逆にステージを降りてからその興奮を醒ますのも大変。若いときはそれを醒ますのに朝までお酒を飲んだりしたけど、最近は体力がないので(笑)、朝までは無理だけど、多少はお酒を飲んで醒ますないと翌日が持たない。それはもう何十年やっても変わりませんね。

PROFILE 音楽家。1978年アルバム『千のナイフ』でデビュー。1984年、自ら出演し音楽を担当した『戦場のメリークリスマス』で英国アカデミー賞他を、映画『ラストエンペラー』の音楽でアカデミー賞、グラミー賞他受賞。近年は音楽活動のほかYCAM(山口情報芸術センター)10周年展、札幌国際芸術祭2014などでキュレーションを手がけるなど現代美術にも深く関わる。主な著書に自伝『音楽は自由に』(新潮社)など。

ロングインタビュー

# 坂本龍一

